

洛東園 だより

■平成23年1月発行 社会福祉法人 洛東園
■発行責任者:木村晴恵
■〒605-0981 東山区本町15丁目794
■電話番号:561-1171 ■FAX:531-8372
■ホームページアドレス <http://www.wf-rakutouen.com>



ご挨拶

社会福祉法人 洛東園 園長 木村 晴恵

新年、明けましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、一昨年より取り組んで参りました「修道洛東園」建設工事も順調に進み、いよいよ大詰めとなりました。「計画期間」の1年間、「工事期間」の1年間、「あっという間」に過ぎた2年間でした。地域の皆々様に支えられ、法人役職員一同が志を一つにして取り組んできた足跡でもあります。3月には全貌を見ていただくことができる予定です。どうぞ、楽しみにお待ちください。

今回は「夢」をテーマに新年号をお届けさせていただきます。

社会福祉法人 洛東園の「夢」がこのような早さで実現できた理由を考えてみました。「東山区2つ目の特養建築」という「夢」は、平成元年に「現在の特養」が完成したと同時にありましたがなかなか実現しませんでした。その理由は「東山区内に建設用地を確保する」ということであったと思います。

そのためにその動きは、童話の「うさぎとかめ」のおはなしの「かめ」のうごきに似ており、東山区全体を「のそり、のそり」「そろり、そろり」と一歩ずつ歩き廻ったように記憶しています。しかし、この度の建設用地のお話をいただいたあとの動きは「かめ」から「うさぎ」になりました。そして「卯年」に完成を迎えることができたことは、社会福祉法人 洛東園が「夢」を持ち続けたことにあると思います。

「夢」についていろいろ調べましたところ、『希望や願望を指して夢という場合は、それらは実現可能なものを指し、また、実現困難な「夢」は、通常、「空想」とされています。また「夢物語」という言葉がありますが、その希望や願望があまりにも非現実的な内容の場合を指します。』とありました。本計画が「空想や夢物語とならなくて本当によかった」とつくづく思っております。そして、新しくできあがった「修道洛東園」をはじめ洛東園のサービスをご利用いただくことによって、安心されている多くのご利用者と「初夢」でお会いできたらと思います。

洛東園の理念

- ◎個性・自主性を尊重し明るい温もりのある生活
- ◎安全と快適な暮らし
- ◎地域に根ざした開かれた施設

□ 養護老人ホーム

昔も今もこれからも

養護老人ホームに入所されている飯田俊子さんは、幼い頃、父親の仕事の都合により、アメリカのサンフランシスコ州で過ごされていました。英語の発音がとてもお上手で、オシャレな方です。11歳で日本に帰国された後は、女学校・専門学校と通い、生け花や編み物、絵画を学ばれるなど、多趣味な方でもあります。今回は若い頃をこのように過ごされてきた飯田さんに、“夢”についてのお話を伺いました。

女学校時代、有名な絵画の先生に習っていたこともあり、「絵の先生になりたかった。」そうです。結果的に、学校を卒業後すぐに結婚され、お子さまを授けられたこともあって、教壇に立つことはできなかったとのことでした。「小さい頃から絵を描くのが好きだったの。今でも時間があれば絵を描きたい。絵を描くことが好きだからねえ。」と、今も変わらない絵画への思いを持っておられます。

飯田さんは、養護で毎月開催される美術クラブに、欠かさず参加されており、ポストカードに絵を描いたり、外に画板を持って出かけ、季節を感じながらスケッチをされたり、絵画を楽しんでおられます。美術クラブでは、昨年から違った角度からも絵を楽しめるようにと、色紙を切り抜き、画用紙に貼るという切り絵もはじめ、参加されている方から好評をいただいております。飯田さんの美術クラブでの様子や、描かれる絵について、他の利用者



さんからは、「いつも熱心に描いてはる。」「とっても上手。繊細やわ。」との声が聞かれています。

「描かんと描けんようなるし、これからも絵を描かんといけんなあ。」と、絵画に対する意気込みを話されている飯田さん。これからも飯田さんが絵に対する変わらない思いを持ち続けられるように、美術クラブを介して職員一同サポートしていきたいと思います。

この記事が書かれた頃はお元気だった飯田さんですが、昨年12月5日、急性呼吸器不全により永眠されました。飯田さんが絵筆をもたれる姿を見られなくなり、利用者さん、職員一同、とても寂しく思います。心よりご冥福をお祈りいたします。

訪問介護 夢



Aさんの夢について伺いました。
「夢はいろいろあるけど、絵手紙の展示会へもう一度参加できたらいいな。」

Aさんは、今までに描いた絵手紙をアルバムに綴じておられ、新しいヘルパーが訪問させて頂くと必ず、その絵を見せてくださいます。体調のいい時に少しずつ描き上げた作品で、「家族写真を真似て描いたの。」「ぱっと花が開く瞬間を描いていたら、気持ちもぱっと明るくなりましてね。」等、1枚1枚に沢山の思い出が詰っており、大切に保管しておられます。

現在Aさんは、パーキンソン病を患っておられ、最近では、思うように動けない日があります。その為、ケアマネジャーと相談して、定期的にお弁当の配達やヘルパーが訪問することで、一人の時間を少しでも減らすようにしています。娘さんは、時々食事の用意をする為に訪れたり、夜、泊まったりしておられます。体調が悪かったり、不安になると好

きな絵にも影響が出るようで、途中まで描いたのに、塗りつぶしてしまっている絵を、ゴミ箱で見かけます。納得のいく作品が描けなくなると、絵を描く自信がなくなり、絵筆を握る時間も短くなります。

「手が動かみにくい時や目が見えにくい時もあり、1枚を仕上げるのに何日もかかります。でも送った知人や友人からとても喜ばれます。嬉しくて、それを励みに頑張って描いているんです。」「もう見えにくいまま治らないと思っていた目が、最近少し見える日もあるようになってきた気がします。」「前向きに頑張っていたら、体の調子も良くなるのでしょうか?諦めかけていた展示会ができればいいな。」と明るい表情で話してくださいました。

何色も重ねた色使いや、生き生きとして動き出しそうな絵から、頑張って絵を描いておられるAさんの姿が思い浮かびます。私達もAさんの展示会を楽しみにしています。



□ 特別養護老人ホーム 音楽会

今年度から、毎月第3日曜日の昼過ぎより、音楽会を開催しています。

季節の歌や明治・大正・昭和のはやり歌、唱歌など利用者さんの年代や時代に合わせた曲を、介護職員が沖縄三線^{さんしん}で演奏し、利用者さんと一緒に歌っています。

この音楽会は、昨年度の消防音楽隊演奏慰問の際、合同で職員も演奏をした後、利用者さんより「定期的に音楽会をしてほしい。」と、強い希望があったことで始まりました。職員で話し合い、歌が好きな方へ声をかけて意見を伺い、月1回定期的に行うようになりました。

今回、音楽会を企画した、当園の門前介護職員に話を聞きました。

「特技の楽器を通して楽しめることができないか考え、僕にできる楽器（沖縄三線^{さんしん}）を演奏しようと思いました。

そこで、利用者さんの誰もが知っている曲を

尋ねたところ、♪【お富さん】♪の意見が多かったです。♪【お富さん】♪を演奏すると手拍子が始まり、音楽会の定番曲となっています。

これからも、利用者さんに楽しんでもらえるように、選曲してもらった演奏をし、いずれは楽器を増やしていこうと思っています。」

歌が好きで毎回参加している利用者さんは、「歌を歌うことは好き。いろんな歌、歌えるよ。」や「楽器に合わせて歌うことはいいね。」「みんなの前で歌うのは恥ずかしいけどね。」といった感想と共に、歌集を見ながら、「船頭小唄」や「雨降りお月」を歌っていただきました。

利用者さんの今後の目標として、3月の家族交流会で歌の披露を目指しています。その他にも、毎年特別養護老人ホームの恒例行事に参加し、音楽会の活動の場を広げていきたいと思っています。



□ もみじの家

夢に向かって一歩ずつ...

もみじの家に配属になり4ヶ月になる私は、介護の仕事に就くのが中学生の頃からの夢でした。

私が中学生の頃、大好きだった祖母が特別養護老人ホームに入所していました。私にとって祖母は良き理解者、良き相談相手でした。押し花を趣味としていた祖母は、庭いじりや花の手入れが大好きで、認知症を発症しても、庭の手入れは心を込めて続けていました。

そんな祖母が、特別養護老人ホームへの入所が決まった時、とても暗い顔をしていたのを、ハッキリ覚えています。

面会に行くと、祖母は職員さんと共に裏庭の手入れをしていました。入所してしばらくは祖母に笑顔はなく、天候によっては「風が強いし花に添え木してやらなアカン。」と騒いだこともあるようです。それを見た職員さん達が、祖母と一緒に裏庭の手入れをする計画をして下さったそうです。私は、職員さんの祖母への心のこもった対応と、施設では見ることはできないと思っていた祖母の笑顔を見て、心を打たれました。と同時に、“自分の体力や持ち前の明るさを活かせる仕事”を見つけた瞬間でした。

認知症が進行し、名前を名乗っても私が孫だと分からなくなった祖母に、「大人になったら、こんな施設で人の心も身体も支えられるような仕事したいなあ。」と呟くと、時間を置いて「あんたに

ピッタリの仕事やわ。人と花っていうのは心込めた分だけちゃんと伝わるから、頑張るんやで。」と激励してくれたのです。その言葉は今でも私の心の支えになっています。

今、22歳になった私は、もみじの家の介護職員として、祖母の言葉を胸に中学生の頃からの夢への一歩を踏み出しました。

もみじの家では就職後、利用者さんの介護はせず、一週間会話するだけの期間を設けます。利用者さんと半世紀以上も年齢が離れている私は、天気の話や家族の話をする以外に、何を話したらいいのかわからず悩みました。しかしその一週間で、職員の動きがどのように目に映るのか、利用者さんの目線で考えることの大切さを知りました。そしてなにより、利用者さんがこれまでどのような暮らしを送ってこられたのかを理解することが、一人ひとりに見合ったケアに繋がると学ぶことができました。

利用者さんの言動の背景にある思いを見い出すこと、その思いを理解し大切にすることで、今までの暮らしを、ここもみじの家においても送って頂けるよう“心に伝わるケア”ができる夢に、一歩ずつ近づいていきたいと思っています。

□ 地域包括支援センター

夢・福祉の未来



近頃、わが国でも介護保険制度により、福祉機器はより身近なモノとなりつつあります。毎年全国各地で開催される、介護福祉機器の展示会などへも、多くの人が訪れています。洛東園からも、昨年秋に東京ビッグサイトで開催された「第37回国際福祉機器展」を訪ね、多種多様な福祉機器を見学してきました。

立体を認識するメカニズムの応用で、一人ひとりの頭の形に合わせて洗髪してくれるロボット

普段寝ているベッドの一部が、スイッチオンで車椅子に形状が変身

浴室やトイレを使用中に、心拍・脈拍・血圧他、体調のチェックをしてくれるシステム



介助者の負担を軽減するための介助スーツ

※まだまだ開発途上のモノもあるようです。



地域・在宅における高齢者の安全・安心を確保する必要性が高まる中、注目を集めているのが、最先端技術の進歩が目覚ましいロボットや情報技術です。これらによって私たちの生活は、今後どのように変わっていくのでしょうか。

平成22年度の東山区総人口に占める65歳以上の高齢者の割合(高齢化率)は、30.1%に達しました(全国では22.7%)。今後も死亡率低下や少子化も相まって、高齢化率の上昇が顕著であり、先に登場したいろいろなシステムを導入した福祉機器を使う日が訪れるのは、それほど遠くはないかもしれません。

しかし、介護の中心は私たち——つまり人であり、福祉機器とはその支援をするための道具に過ぎないということは、いつの世になっても、常に忘れないでいたいものです。



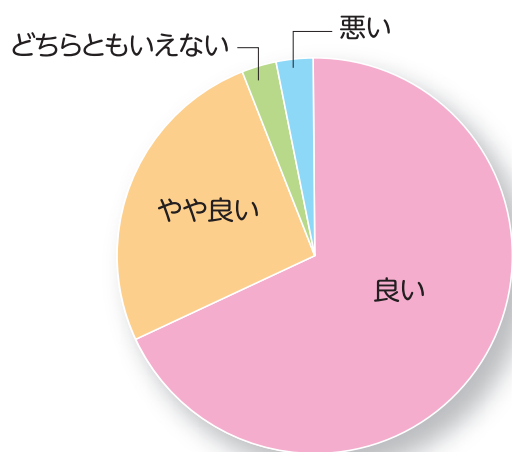
ご利用者アンケート 結果報告



今年度も利用者の皆様にアンケート調査を実施いたしました。
その結果を各部署で、真摯に受け止め、改善方法を検討いたしましたので、
その中から、各部署ごとに質問を一つずつ取り上げ、具体策を掲載いたします。
他の質問については、改めてホームページに掲載させていただきますので、
洛東園のホームページをご覧ください。

特別養護老人ホーム

問) ご利用者の整容(服装や身なり)は、それぞれの好みや季節にあったものになっていますか?



【家族より】

眼鏡が汚れています。毎日でなくても拭いて頂けたらと思います。

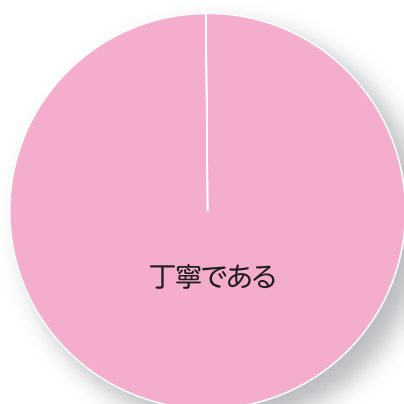


【具体策】

毎朝、洗面の際に、眼鏡の汚れを取ることにいたします。

ショートステイ

問) 居室やフロアの整理整頓は行えていますか?



【家族より】

洗濯物が洗っているのか洗っていないのかわからない。

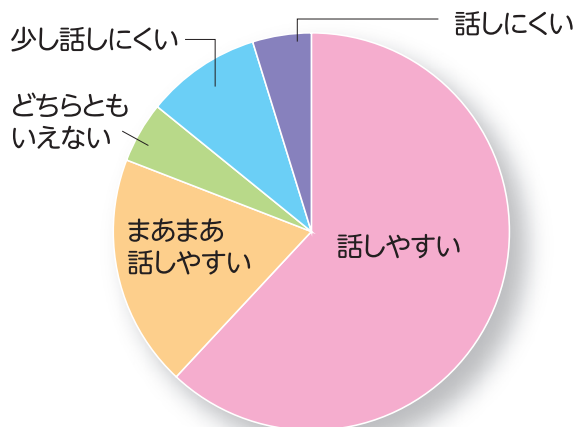


【具体策】

帰宅時間の都合により衣類が洗濯できない場合は、ビニール袋に入れ、洗濯できないことを紙に書いて貼るよういたします。

養護老人ホーム

問) 職員は話しやすいですか？



【入所者より】

お忙しいでしょうが、職員の方から声かけ、話をしてもらえたら嬉しい。年をとれば品物より、声かけがなにより嬉しい。あまり声かけがない、淋しいです。

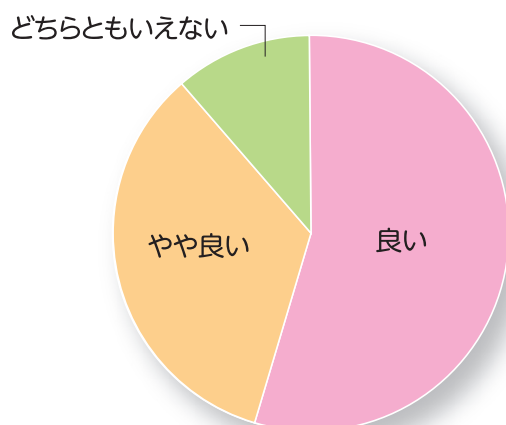


【具体策】

個々のご利用者が何を求めておられるのかを常に意識し、メンタル面での関わりをしっかりと行います。また、ゆっくり話せる時間が取れるよう、業務体制を見直します。

デイサービス

問) 連絡ノートは、わかりやすく記入できていますか？



【家族より】

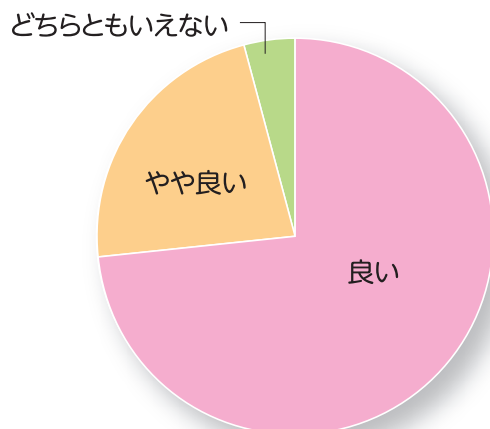
内容が詳しい時と短めの文章の時と色々です。何か一言書いていただいていると、とても嬉しいです。たまに白紙があります。同居していないので、もう少し具体的に記入してください。



【具体策】

いつもと変わった様子があったときには、詳しく書くようにします。また、いつもと同じ様子のときには、レクリエーションでの様子を書くようにします。

問) 職員の身だしなみは整っていますか？



【利用者より】

考えていないんだと思います。



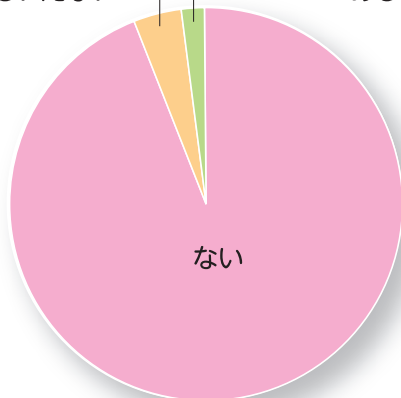
【具体策】

ユニフォームの着用を徹底します。

ホームヘルプサービス

問) 電話での対応で、不快な思いをしたことはありますか？

どちらともいえない ある ない



【利用者より】
ある。

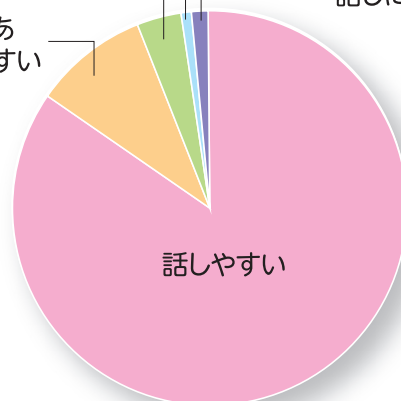


【具体策】
アンケートの回答を拝見し、早速、電話対応の研修を行いました。少しは良くなったでしょうか？

居宅介護支援事業所

問) ケアマネジャーは話しやすいですか？

どちらともいえない 少し話しにくい 話しにくい まあまあ話しやすい 話しやすい



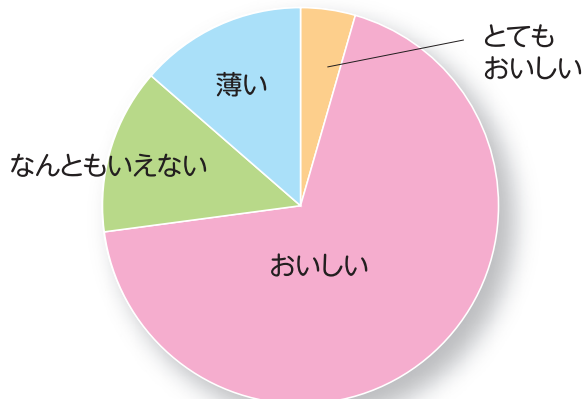
【利用者より】
一方的に話されて自分のことを聞いてもらえない。



【具体策】
「傾聴」というテーマでの研修を企画します。

配食

問) 配食弁当の味付けはいかがですか？



【利用者より】
味が薄い。



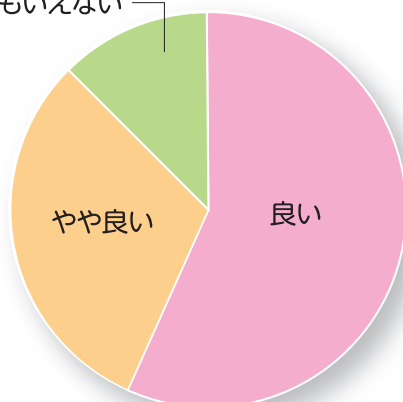
【具体策】
配食の担当者と栄養士と定期的に会議を開催し、お弁当を持参した際に承ったご意見を直接伝える場を設けます。



もみじの家

問) 連絡ノートはわかりやすく記入できていますか？

どちらともいえない



【家族より】

今も書いては頂いていますが、具体的にどんなすごし方をしたかを書いて頂くとよくわかりますので。

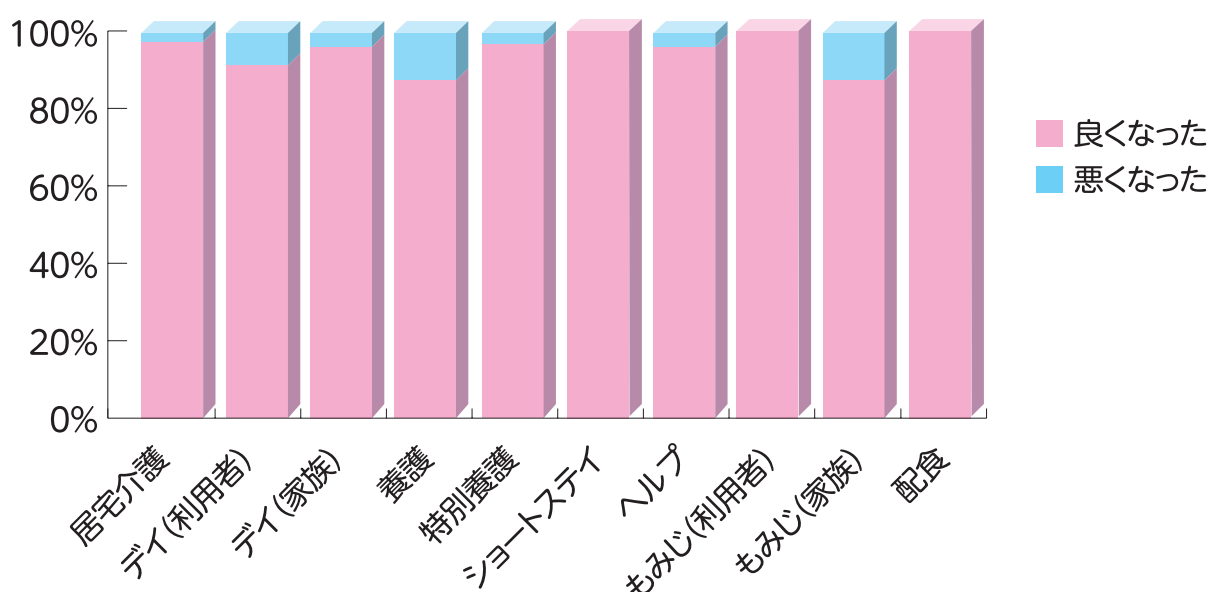


【具体策】

「何時から何をしました。」「そしてどのような表情をされました。」というように具体的に分かりやすく書くようにします。

各サービス共通

問) 洛東園の印象は実際にサービスを利用して変わりましたか？



《用語解説》

- 居宅介護＝居宅介護支援事業所
- デイ(利用者)＝デイサービス利用者
- デイ(家 族)＝デイサービス利用家族
- 養護＝養護老人ホーム
- 特別養護＝特別養護老人ホーム
- ショートステイ＝短期入所利用者
- ヘルプ＝ホームヘルプサービス
- もみじ(利用者)＝小規模多機能サービス利用者
- もみじ(家 族)＝小規模多機能サービス家族
- 配食＝配食サービス

自由記載では、利用者・家族より

◎ サービスを利用する前に特に印象を持てなかったので比べることができない。

◎ 最初から良いと思ってお世話になり、今も変わらず良いと思います。

◎ 洛東園を知らなかったので何も印象はなかったです。

などの意見が寄せられました。

回答は「良くなった」という評価を頂いておりますが、洛東園のサービスを利用していない方にも洛東園を知っていただくために、洛東園の理念の一つである「地域に根ざした開かれた施設」として、地域の皆さまとの交流を深める努力を続けて行きたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

洛東園の行事予定

施設名	1月	2月	3月
養護老人ホーム	屋内ゲーム	*****	ボランティア表彰
特別養護老人ホーム	*****	節分会	*****
デイサービスセンター	新年会	節分会	お花見ドライブ(3月下旬より)
もみじの家	新年会	節分会	ひな祭り
全 体	元旦祝賀式	節分会	彼岸法要 修道洛東園竣工式

..... その他、クラブなども随時行っております。

編集後記

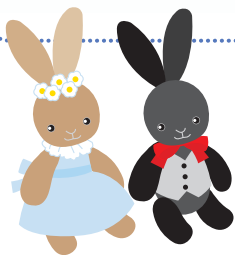
～一富士 二鷹 三デイサービス～

今回のテーマは「夢」です。

お正月に見る縁起の良い初夢に、「一富士 二鷹 三茄子」という言葉があります。もとはといえば、徳川家康の好きだったものを並べたという説がありますが、一般的には、「一、無事 二、高い 三、事を成す」と解釈されているようです。

この縁起を担ぎ、洛東園デイサービスセンターは、これまで以上に『一、安心して利用でき 二、より質の高いサービスを提供する 三、選ばれるデイサービスに「成る」』を目指します。

利用者さん・ご家族・地域の皆様から頂く言葉のすべてが、私達職員の仕事の原動力になっています。今後も、厳しい言葉をお待ち致しております。
(デイサービス)



今年は兎年

今年もどうぞよろしく
お願い申し上げます。

洛東園だより

発行／社会福祉法人 洛東園

〒605-0981 東山区本町15丁目794

電話番号:561-1171 FAX:531-8372

ホームページアドレス

<http://www.wf-rakutouen.com>

※尚、記事中の写真は全てご本人様、ご家族様の承諾を得て掲載しております。

一、安心して利用できるサービス

利用者さんだけでなく、ご家族・地域の皆様からも安心して利用していただけるデイサービスを目指します。

二、より質の高いサービス

デイサービスの送迎中・利用中に、利用者さん・ご家族、地域の皆様から様々な言葉をかけて頂きます。激励の言葉、温かい言葉、時には厳しいお言葉もあります。それらの言葉に応えるべく、皆様から認められる、より質の高いサービスを提供するデイサービスを目指します。

三、選ばれるデイサービス

数箇所あるデイサービスの中から、「やっぱり洛東園」と選ばれるように、特色あるデイサービスを目指します。そして、これまで以上に、これらを実現できるデイサービスに「成り」ます。

寄付・寄贈

寄贈 日本たばこ産業(株)様、伏見稻荷大社様

寄贈順

寄付 石井静男様、石居志郎様、磯松洋子様、今村寿子様、上茶谷亀三様、大山良雄様、杉井哲朗様、竹之内實様、土倉金三様、中嶋秀典様、原 健様、平林朋宗様、古村 聡様、松永洋子様、森本好子様、山元美代子様、吉田愛子様

一橋社会福祉協議会様、一橋民生児童委員協議会様、今熊野社会福祉協議会様、今熊野民生児童委員会様、カミヨシ様、共同募金 月輪分会様、修道社会福祉協議会様、修道民生児童委員協議会様、月輪学区自主防災会、月輪学区社会福祉協議会様、月輪シニアクラブ様、月輪民生児童委員会様、貞教社会福祉協議会様